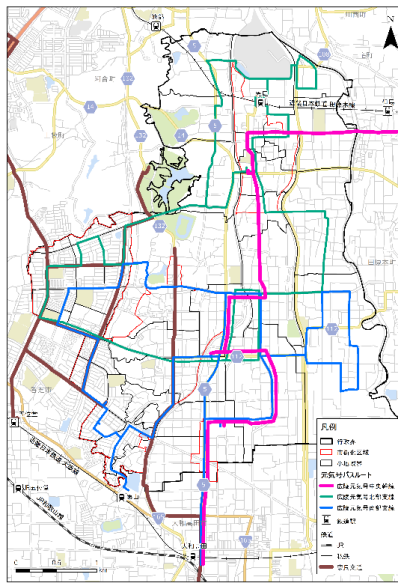
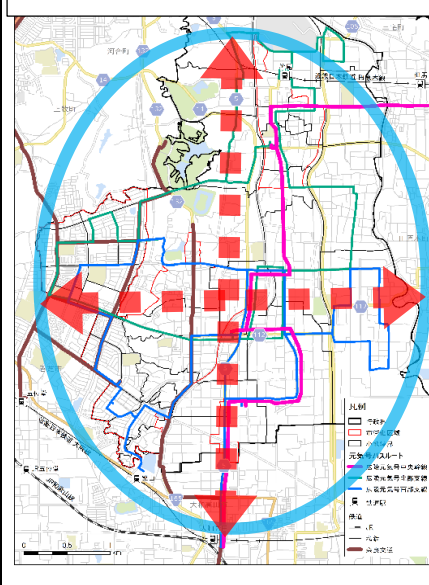
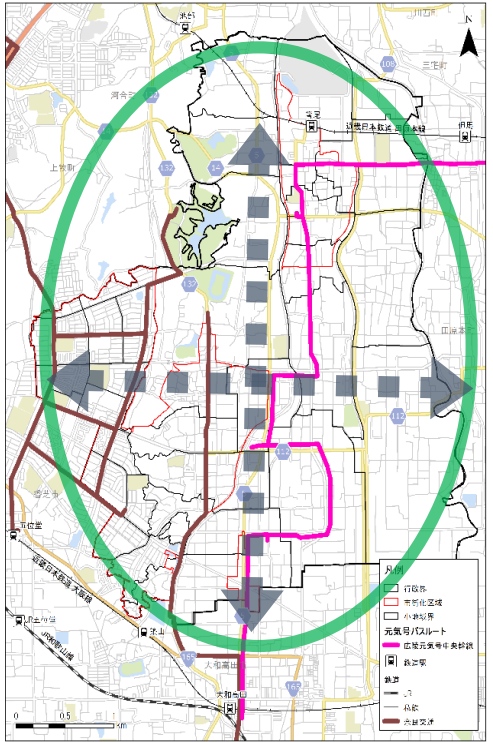
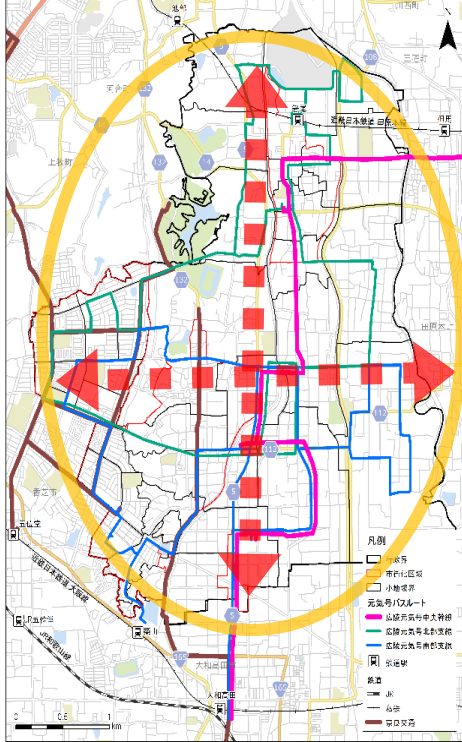


目指すべき公共交通ネットワークについて

本町において、どの戦略目標を重視するかで目指すべき公共交通ネットワークが変化する。そのため協議会で協議する必要がある。現時点では、重視する戦略ごとに表すと、以下の4つが候補となる。

積極的戦略重視	差別化戦略重視
<p><b>■積極的戦略重視の考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通を取り巻く現状や今後の見込みを、現在の町における公共交通の強みを向上・継続するチャンスととらえて施策を講じる。</li> <li>→現在の町が有する公共交通を活かしつつ、町を取り巻く良好な条件や新たな技術・制度等を積極的に使うことで、公共交通をより「活用」できる手段とする。</li> </ul>	<p><b>■差別化戦略重視の考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通を取り巻く脅威に対し、本町の公共交通が有する強みを活かすことで、脅威に対応できる施策を講じる。</li> <li>→町を取り巻く脅威に対し、現在の町が有する公共交通の強みを活かすことで対抗するため、他のサービス等と差別化を図り、公共交通が移動手段として「選択」されるようにする。</li> </ul>
<p><b>■積極的戦略重視の背景・概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本町がベッドタウンであるという特性から、町外への通勤通学者の鉄道駅までの交通手段を確保する必要がある。また、アンケート調査では、バスの便数及びルートなど運行改善を求める意見が多く出ていたため、広陵元気号の運行を拡充し、路線バスについても運行事業者と運行内容の検討を行う。</li> <li>ICTの取り組みを進め、既存公共交通を活用することに加えて、町内企業及び商業施設との連携など、多様な輸送手段を総動員した公共交通体系を構築する。</li> <li>●戦略の基となる町を取り巻く強み・機会 <ul style="list-style-type: none"> <li>町内企業との連携（企業バスの導入）</li> <li>奈良交通路線バスの運行</li> <li>ICT等の取組推進</li> <li>広陵元気号の拡充</li> <li>高い買い物の行動特性（90%）を見据えた商業施設との連携</li> <li>通勤通学での移動（60%）を担う既存公共交通の連携強化</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>■差別化戦略重視の背景・概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後増加が予想される75歳以上の後期高齢者の移動手段の確保が必要であり、福祉分野と連携した福祉・医療施設への輸送強化を図るため、新たに自家用有償運送の開始やタクシー利用の補助を実施する。</li> <li>●戦略の基となる町を取り巻く強み・脅威 <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉分野との連携による交通弱者対策</li> <li>奈良交通路線バスの運行</li> <li>利用環境の向上（各利用環境の改善は20～30%でサービス拡大を求める声あり）</li> <li>商業施設との連携強化による移動促進</li> <li>福祉・医療施設への輸送強化</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>■積極的戦略重視方針</b></p> <p>路線バスは、利用者が多い五位堂駅及び他の公共交通との連携に合わせたサービスを検討する。また、広陵元気号について、便数・ルート等を改善し、利用をしてもらう。さらに、企業立地の推進を見据えた企業バスの導入等、多様な輸送手段を活用する。</p>  <p><b>■再編方針</b></p> <p><b>路線バス+広陵元気号(拡充)+多様な輸送手段(企業バス等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷路線バス（真美ヶ丘地域） <ul style="list-style-type: none"> <li>既存路線以外の地域からの五位堂駅への接続強化及び既存路線の見直し（町内移動）による日中の利用増を図るため、運行事業者に働きかける。</li> <li>（在来地域） <ul style="list-style-type: none"> <li>広陵元気号との連携を強化するなど、利用促進を図るため、運行事業者に働きかける。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>▷広陵元気号（拡充） <ul style="list-style-type: none"> <li>停留所の移設（増設）やルート・ダイヤの再編を検討する。</li> <li>運行情報の周知徹底、路線バスとの連携強化を図る。</li> </ul> </li> <li>▷多様な輸送手段 <ul style="list-style-type: none"> <li>企業誘致による企業バスの運行、病院バスの活用等を検討する</li> </ul> </li> <li>▷運行経費（概算）※ 約8,400万円 <ul style="list-style-type: none"> <li>広陵元気号：約8,400万円</li> <li>（3路線での実績：約6,400万円）</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>■差別化戦略重視方針</b></p> <p>路線バスは、利用者が多い五位堂駅及び他の公共交通との連携に合わせたサービスを検討する。高齢者などの交通弱者への対応として、広陵元気号の改善や自家用有償運送等の新たな公共交通サービスの他、タクシー補助により利用を促し、移動を確保する。</p>  <p><b>■再編方針</b></p> <p><b>路線バス+広陵元気号(維持・改善)+自家用有償運送+タクシー補助</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷路線バス（真美ヶ丘地域） <ul style="list-style-type: none"> <li>既存路線以外の地域からの五位堂駅への接続強化及び既存路線の見直し（町内移動）による日中の利用増を図るため、運行事業者に働きかける。</li> <li>（在来地域） <ul style="list-style-type: none"> <li>広陵元気号との連携を強化するなど、利用促進を図るため、運行事業者に働きかける。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>▷広陵元気号(維持・改善) <ul style="list-style-type: none"> <li>路線バスや近隣市町の公共交通との連携を図る。</li> </ul> </li> <li>▷自家用有償運送の運行 <ul style="list-style-type: none"> <li>交通弱者対策として会員登録制により、病院などに発着場所を限定して運行する。</li> </ul> </li> <li>▷タクシー補助 <ul style="list-style-type: none"> <li>妊産婦などの交通弱者に限定し、1乗車あたり500円を補助する。</li> </ul> </li> <li>▷多様な輸送手段 <ul style="list-style-type: none"> <li>企業誘致による企業バスの運行を検討する</li> </ul> </li> <li>▷運行経費（概算）※ 6,700万円+自家用有償運送経費 <ul style="list-style-type: none"> <li>広陵元気号：約6,400万円</li> <li>自家用有償運送：収入の不足分（経費-収入分）を補填（国交省資料で1団体平均200万円）</li> <li>タクシー補助約250万円（500円/乗車）</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>■メリット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運行の拡充</li> <li>多様な輸送手段の活用による利便性向上</li> </ul>	<p><b>■デメリット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>路線バス拡充に対する合意</li> <li>企業バスの利用に関する企業への合意</li> <li>運行経費の増大</li> <li>人的リソースの確保</li> </ul>

※運行経費は、路線バス・広陵元気号は実績値、デマンド型バスは概算見積、タクシー補助は他都市事例であり、参考値である。

弱点強化戦略重視	防衛戦略重視
<p><b>■弱点強化戦略重視の考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通を取り巻く現状や今後の見込みを、現在の町における公共交通の弱みを強化・改善するチャンスと捉えて施策を講じる。</li> <li>→現在の町における公共交通の弱点を、町を取り巻く良好な条件や新たな技術・制度等を活用し、公共交通の利便性を「改善」する。</li> </ul>	<p><b>■防衛戦略重視の考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通を取り巻く脅威に対応するため、本町の公共交通が有する弱みを改善し、公共交通を守るための施策を講じる。</li> <li>→現在の町が有する公共交通の弱みが町を取り巻く脅威にさらされることで公共交通の存続が脅かされないように、公共交通を「維持」する。</li> </ul>
<p><b>■弱点強化戦略重視の背景・概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後増加が見込まれている後期高齢者が免許返納後も安心安全な移動を行えるよう、長大化している広陵元気号路線の一部をデマンド型運行に移行させるなど、多様な輸送手段を活用した新たな輸送体系を構築する。合わせて、効果的な周知を行い、免許返納者に対する利用促進、高齢者の免許返納の促進を図る。</li> <li>また、通勤通学の交通手段確保のため、時間帯に応じて運行形態を変えた運行を実施する。</li> </ul> <p><b>●戦略の基となる町を取り巻く弱み・機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広陵元気号の運行形態の改善</li> <li>奈良交通路線バスの運行</li> <li>既存公共交通の維持・連携強化</li> <li>免許返納者への利用促進強化（免許返納者の1割程度（鉄道：約20%、路線バス：約11%、コミバス：約5%、タクシー：約22%）が公共交通を利用）</li> <li>利用促進の強化</li> <li>運行情報の発信強化（元気号では33%がサービス拡大を求めている）</li> <li>鉄道駅への接続強化</li> </ul>	<p><b>■防衛戦略重視の背景・概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存公共交通の運行を持続可能なものにするため、既存公共交通の乗り継ぎ向上、運行情報の効果的な発信により、既存公共交通の強みを最大限に活かす。また、自動運転車両や電気自動車の導入により、限りある人的・物的リソースを有効活用し、広陵元気号の運行を維持・改善する。</li> <li>路線バスについては運行事業者と運行内容の検討を行うこととし、タクシーについては利用促進のため、交通弱者にタクシー補助を行う。</li> </ul> <p><b>●戦略の基となる町を取り巻く弱み・脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広陵元気号の運行形態の改善</li> <li>新技術・制度を活用した新たな移動手段の導入</li> <li>既存公共交通との乗り継ぎ向上</li> <li>高齢者の移動の安全確保</li> <li>福祉分野と連携した外出機会創出</li> <li>奈良交通の強化・充実・維持</li> <li>運行情報の発信強化</li> <li>交通弱者の買い物対策</li> </ul>
<p><b>■弱点強化戦略重視方針</b></p> <p>路線バスは、利用者が多い五位堂駅及び他の公共交通との連携に合わせたサービスを検討する。一方、利用者が少ない元気号路線を縮小（大和高田駅利用者が多いため中央幹線は存置）し、企業バスや地域福祉運送等の町内の様々な輸送手段を総動員し、住民の移動手段を確保する。</p>  <p><b>■再編方針</b> <b>路線バス+広陵元気号(縮小)+デマンド型交通+多様な交通手段+地域福祉輸送</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷路線バス（真美ヶ丘地域） 既存路線以外の地域からの五位堂駅への接続強化及び既存路線の見直し（町内移動）による日中の利用増を図るため、運行事業者に働きかける。（在来地域） 広陵元気号との連携を強化するなど、利用促進を図るため、運行業者に働きかける。</li> <li>▷広陵元気号（縮小） 日中は、大和高田駅へのアクセス確保のため中央幹線を存置し、支線をデマンド型交通に移行する。通勤通学利用に対応するため朝夕については定時定路線の運行を維持する。</li> <li>▷デマンド型交通 町内移動に限定し、既存バス停のほか、停留所を増設する。 存置する中央幹線との連携のため、主要施設間の移動及び中央幹線沿線間の利用は原則禁止とする。 免許返納者や高齢者、妊産婦、障がい者など交通弱者には割引料金を適用し2料金制とする。</li> <li>▷地域福祉輸送（社会福祉協議会で運営） 高齢者及び障がい者等の会員登録制とし、通院や生活必需品の買い物など用途や行き先を限定した運行とする。</li> <li>▷多様な輸送手段 企業誘致による企業バスの運行、病院バスの活用等を検討する。</li> <li>▷運行経費（概算）※約6,200万円 広陵元気号：約3,200万円 デマンド型バス：約3,000万円</li> </ul>	<p><b>■防衛戦略重視方針</b></p> <p>路線バスは、利用者が多い五位堂駅及び他の公共交通との連携に合わせたサービスを検討する。広陵元気号は、路線バス等との乗り継ぎなど利便性を向上させることで、加えて、タクシーの利用は減少しているため、補助により利用を促し、交通弱者の移動を確保する。</p>  <p><b>■再編方針</b> <b>路線バス+広陵元気号(維持)+タクシー補助</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷路線バス（真美ヶ丘地域） 既存路線以外の地域からの五位堂駅への接続強化及び既存路線の見直し（町内移動）による日中の利用増を図るため、運行業者に働きかける。（在来地域） 広陵元気号との連携を強化するなど、利用促進を図るため、運行業者に働きかける。</li> <li>▷広陵元気号（維持・改善） ルート及びダイヤなど更なる利便向上 路線バスや近隣市町の公共交通との連携強化（乗り継ぎ）</li> <li>▷タクシー補助 妊産婦などの交通弱者に限定し、1乗車あたり500円を補助する。</li> <li>▷運行経費（概算）※約6,650万円 広陵元気号：約6,400万円 タクシー補助：約250万円（500円/乗車）</li> </ul>
<p><b>■メリット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デマンド型交通により、乗車時間の短縮</li> <li>福祉輸送により高齢者等への移動支援</li> </ul> <p><b>■課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デマンド型交通の利用意向が低い（アンケート調査：「利用したい」16.6%）</li> <li>福祉施策とデマンド型交通の棲み分け</li> <li>企業バスの利用に関する企業への合意</li> </ul>	<p><b>■メリット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なじみがある運行形態なので使いやすい</li> <li>タクシーの利用促進に繋がる</li> </ul> <p><b>■デメリット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広陵元気号はほとんど利用されていない（アンケート調査：「ほとんどあるいは全く利用しない」95.1%）</li> <li>タクシーはあまり利用されていない（配車アプリの営業圏外）</li> </ul>

※運行経費は、路線バス・広陵元気号は実績値、デマンド型バスは概算見積、タクシー補助は他都市事例であり、参考値である。

